

緑のカーテン

(あけび編)

さやま環境市民ネットワーク 温暖化対策分科会

P : 1/4



この部屋の窓は西側を向いていますが、窓に覆いかぶさるようにあけびのつが茂り、西日を遮ってくれます。

このあけびの緑のカーテンを作る前は、西日で部屋がとても暑かったのですが、緑のカーテンのおかげで、快適に使えるようになりました。

窓から1m離れた所に逆L字型の棚状に仕立て、幅は2mです。



冬の間は葉が落ちます。つるも思い切って切り詰めると、冬には入って欲しい日の光の邪魔にはなりません。

よく見ると、節のように膨らんで見えるところは、次の年に向けて用意されている芽や花芽です。

手前の支柱に近いところに植えてあるのがあけび、奥の支柱に近いところに植えてあるのが五葉あけびです。



春になり、早咲きのチューリップの蕾が色づく頃になると、花芽がどんどん膨らんで花が咲き、新しい葉が伸びてきます。

この時期から1～2週間すると新しい葉がもっとたくさん出てきて、開ききらない柔らかな葉を摘んでおひたしにすると、ちょっと苦味のある春を楽しむことができます。

(左の写真は五葉あけび)

緑のカーテン

(あけび編)

さやま環境市民ネットワーク 温暖化対策分科会

P : 2 / 4



あけびも五葉あけびも、芽吹き、新芽の伸びなどの時期は変わりません。

あけびは薄い紫色の花をつけ、五葉あけびは濃いえび茶色の花をつけます。

(左の写真はあけび)



開花と並行して葉もどんどん伸びますが、節のところから新しい細いつるがたくさん出てきます。その細いつるをガイドするために網目が10cmほどのつるものネットが効果的です。

細いつるはどんどん伸び、つるから出てくる葉が大きくなって緑のカーテンの厚みが増し、色が日増しに濃くなります。

(左の写真は五葉あけび)



満開になる頃には、葉も大きくなり、ますます緑のカーテンが充実してきます。写真は棚に至る立ち上がりの部分ですが、花は比較的地面に近いところから、棚の上まで咲き、心地よい独特の香りを放ちます。

(左の写真はあけび)

緑のカーテン

(あけび編)

さやま環境市民ネットワーク 温暖化対策分科会

P : 3/4



棚の部分にもたくさんの花が咲き、蜜蜂やあぶなどが蜜を求めて集まるのを楽しむことができます。

ゴーヤの花は緑のカーテンの表の面で咲きますが、あけびの花は裏の面で咲きますから、花の形や香りを緑のカーテンの中で楽しむことができます。

(左の写真はあけび)



左の写真は、あけびの花を更に近づいて撮影したものです。

一つの花穂の中に雄花と雌花が別々に咲き、中に黒っぽい色のある白い花が雄花、全体が薄紫色の大きい花が雌花です。



秋になると、あの独特の格好をした実が収穫できます。左の写真は五葉あけびの実が連なって下がっているところですが、熟すと一番下の実のように縦に裂けて果肉が顔を出します。タネは多いものの、味は透き通った甘さのお菓子のようなです。

また、外側の皮も衣をつけて揚げたり、肉詰めなどにすると、ビールのつまみなどに最適。

緑のカーテン

(あけび編)

さやま環境市民ネットワーク 温暖化対策分科会

P : 4 / 4



あけびの実は皮の色が褐色で、五葉あけびの実と外観が異なります。

果肉の味は五葉あけびと同じですが、果皮はごそごそした感じで、五葉あけびほど美味しくありません。

あけびの緑のカーテンは、次のことが楽しめます。

- ① 新芽を山菜として味わうことができます
- ② 花は心地の良い香りを提供してくれます
- ③ 実は果肉、果皮とも独特の食感と風味が味わえます
- ④ そして、もっとも大きな楽しみは、夏は日陰、冬は十分な日差しが得られる再生可能な自然のカーテンになることです

北隆館の牧野新日本植物図鑑によると、あけびには次のような種類があるようです。

あけび	つる性の植物。雌雄同株で一つの花穂に多数の雄花と大形で少数の雌花をつける。果皮は厚く、熟すと縦に開いて白い果肉が現れる。果皮、果肉とも食用になる。霜が降りる頃に落葉。
三つ葉あけび	つる性の植物。葉柄上に小葉が3枚あるのでこの名がある。紫色の果皮は熟すと縦に開いて白い果肉が現れる。果皮、果肉とも食用になる。霜が降りる頃に落葉。
五葉あけび	つる性の植物。あけびと三つ葉あけびの雑種。葉柄上に小葉が5枚あるのでこの名がある。果皮は熟すと縦に開いて白い果肉が現れる。果皮、果肉とも食用になる。霜が降りる頃に落葉。